

# か だ る

ka da ru

2014

6月

夏号

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

## 輝くシニア

### 女性のおもてなしの心が地域を彩る

#### せんまや逸品の会（一関市）

一関市千厩町では毎年、空き店舗を活用した「せんまやつるし飾り物語」が開催され、地域を盛り上げています。

イベントを主催するのは、せんまや逸品の会（佐藤直子会長、会員10名）。同会は、高齢化が進む中、地域の高齢者が身近なところで買い物ができるようにするために、「商店街から活気を取り戻すことから始めよう」という思いを共有した60～70代の女性達によって、平成16年に結成。このイベントは平成22年から毎年開催しています。

元来、千厩町のひなまつりは、家庭や公共施設で保存されてきた段飾りを、千厩酒のくら交流施設に飾って祝う祭りでした。そこに同会が、つるし飾りを取り入れたことがきっかけで「せんまやつる

し飾り物語」として、次第に商店街や地域の協力を得て普及させてきました。開催時期は、秋のにぎわいを呼び込もうと、長寿を願う重陽の節句（9月9日）

に合わせています。昨年は、4日間の開催で、市内外から1,000人近い人が訪れました。開催準備は、地域がこぞって協力しており、様々な交流の場や人のつながりを生み出しています。

今年は9月12日から4日間の開催予定で、今年の干支と千厩の地名の由来となっている馬の飾りを



せんまやつるし飾り物語の会場

1,000個展示するほか、「せんまやつるし飾り物語」5周年記念の抽選会も予定しています。

佐藤会長は、「会員は全て高齢者で、参加者も高齢者が多い。

そのため、高齢者同士の交流が増え、支え合う地域づくりに貢献できていると思う」と話しています。

また、桃の節句に合わせた「せんまやひなまつり」は、2月から3月にかけて千厩酒のくら交流施設をメイン会場として開催されます。商店街の各店舗には、段飾りやひな飾りに合わせてつるし飾りを華やかに飾り付け、訪れる人の目を楽しませています。つるし飾りはすべて手作り。無病息災、良縁、子や孫の成長など一針一針に祈りや願いが込められています。

同会へのお問い合わせはTel 0191-53-2735（一関商工会議所千厩支所内）まで。

（この事業の一部に、いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



一針一針に願いを込め、つるしびなを作る会員と地域の皆さん

団塊の世代が定年退職を迎える中、地域社会では「新たな担い手」として自由な時間と知識や経験を有する元気な高齢者に期待が寄せられています。また、高齢者自身も経験を生かすことで、第二のステージとして自分の生きがいづくりに繋げていくことができます。

このような期待に応えようと、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会では、高齢者が地域で活動に踏み出せるよう応援する「元気な高齢者社会参加支援モデル事業」を、平成 25 年 10 月から翌 26 年 3 月にかけて、一関市と大船渡市において実施しました（共催：一関市シニア活動プラザ、特定非営利活動法人夢ネット大船渡、高齢者社会貢献活動サポートセンター）。この実施結果について紹介します（一部、「かだる」2013 年 12 月冬号に掲載）。

高齢者等（対象 55 歳以上）に参加を呼びかけ、高齢者の生きがいづくり・地域づくりについて学び、話し合うため「シニアわくわくサロン」を開催（一関市では 25 年 10 月から、大船渡市では 11 月から）。



三鉄車中の現地交流会で、意見交換を行っている様子



中央講師を招いて開催したセミナー（大船渡市）

サロンでは、岩手県立大学・倉原宗孝教授をコーディネーターに、高齢者の生きがい、地域における仲間づくり、社会参加や活動などについて学習し、話し合いました。これに加えて具体的な活動の参考となるよう、12 月と 2 月に中央講師を招へいし、シニアライフにおける生きがいや、シニアの知識・経験等を生かした県外の活動事例を紹介。その他、1 月には介護についての実践講座、3 月は、三陸鉄道南リアス線の車両を貸し切って現地交流会を開催し、一関市と大船渡市の参加者が意見交換を行ったほか、各地域での活動事例を紹介しました。

参加者からは、「今後何かしなければと感じた」「ボランティア活動をしたい」「参加した人たちと何か活動を立ち上げたい」「地域のさまざまな活動のネットワークをつくりたい」など、社会参加や地域での活動への意識が高まり、気運の盛り上がりが見られ、今後具体的な活動への取組が期待されます。

平成 26 年度は、一関市と大船渡市のサロンを継続し、実践的な講座を中心に開催することとしています。また、新たに滝沢市でサロンを開催します。社会参加に興味を持たれる方、仲間と一緒に活動してみたい方などの参加をお待ちしています。

## 平成 26 年度「ご近所支え合い活動助成金」第 2 次募集のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、ご近所支え合い活動助成金の第 2 次の申請を受け付けています。締切は、平成 26 年 6 月 30 日（月）必着としています。

申請についてのお問い合わせは、当サポートセンターまで。

※ご近所支え合い活動助成金とは、県民が共に支え合う活動を支援し、安心して暮らし続けることができる地域社会を実現するため、県民の地域貢献活動を支援するための助成制度です。概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、「高齢者が主体となって行う活動」または「高齢者等をサービスの対象とした活動」を対象としています。

## 一時預かりすこやかルーム (久慈市)

## 「高齢者の力で子育て支援」

昨年10月、久慈市に、一時預かりすこやかルームが開所しました。保護者が学校行事や買い物、美容院など用事がある場合、一時的な保育として利用できます。この施設は元々空き家で、市内の保育士や看護師の資格を持つ高齢者が中心となって内装の改修を施し、NPO法人サロンたぐきりが子育て支援事業として実施しています。利用は月曜から金曜日の8:30から17:00までの間で、利用時間は1時間から3時間以内(要事前予約)。一時預かりの定員は3人としています。料金は無料ですが、管理費等のために数百円の寄付をお願いしています。



平成25年10月に開所した「すこやかルーム」

同法人の関合理事長は、「昨年10月に開所し、それほど宣伝はしていないが、徐々に利用者が増えている。育児スタッフの平均年齢は約68歳。報酬はないが、子供と触れ合うことが楽しく、生きがいとなっているよう

だ。保育士等の資格を有しており、しっかり責任をもってお預かりします」と話しています。

すこやかルームへのお問い合わせはTel 0194-75-3790まで。

## あやおり夢を咲かせる女性の会 (遠野市)

## 「農村の女性の力を地域づくりに生かす」

あやおり夢を咲かせる女性の会(菊池ナヨ会長、会員28名)は、農村女性による地域づくりを实践しようと、平成6年に結成。会員は全て女性で、平均年齢は約62歳。環境美化、食育など、様々な地域活動を行う一方で、

平成10年、道の駅風の丘内に「夢咲き茶屋」をオープン。遠野市に「郷土食の伝承」と「農家の女性の働く場」を提案して実現しました。商品は地元伝統の「かねなり」「きりせんしょ」やおでん、おにぎりなどで、食材は地域の農業グループから仕入れるなど、地域の農業振興にも貢献しています。また、会員の大半は高齢者で、生きがいや社会参加の一助にもなっています。



地域のイベントで活躍する会員の皆さん

菊池会長は、「高齢者が稼げるということが生きがいにつながっているが、それが会の本来の目的ではなく、地域づくりの理念が最も重要だと考えている。今年は結成20周年で、写真集発行の他、様々なイベントを企画している。若い世代の会員も入ってきており、さらに活動を広げていきたい」と話しています。

## お元気シニアボイス「高齢者の元気はまちの元気 夢ステージで交流の絆」奥州市 村上徳也さん(79歳)

今日の日本は超高齢社会を迎え、変遷激しい時代を生きている。そのような中で、全国では、地域の再生やまちづくりへの取組が行われているが、地域のリーダーや担い手の中心は高齢者である。

最近の高齢者は感覚も若々しく、ニーズも多様になっているが高齢者の元気は「まちの元気」でもある。

今年度、いきいき岩手支援財団の助成をいただき、芸達者なクラブ会員による「演芸一座」を設立し、被災地

の仮設住宅等の訪問交流や福祉施設の慰問ステージに楽しさと笑顔を届け、コミュニティの絆を広めようと企画している。

人生の時間は戻ってこない。高齢者の尊厳をかけて暮らしている社会でもある。少しでも地域社会のためにお役に立てればとボランティアの精神を活かし、人生の再生、地域の再生に向けて「今日を楽しく、明日に夢を！」と「想いを行動に」を掲げ、一座漫遊のスタートとなる。

キツキネットワーク岩手（五十嵐正会長、会員212名）は、「老いても、病んでも、自分らしく心豊かに」をスローガンに掲げ、病気や高齢に伴う不安や悩みを分かち合い、支え合い、よりよく生きるために活動することを目的として、昨年10月に発足しました。会員は盛岡市を中心とした60歳以上で、女性の割合が多くなっています。

会が設立したきっかけは、昨年7月、医師を招いて講演会「地域医療を考える会」を開催した際、今後も継続して学び、情報を交換していきたいとの声が上がリ、有志によって発足しました。会の名称は、キツキが樹の幹を突つくように、隣人の肩や心をトントン叩きながら悩みや困りごとを共有し、ネットワークを広げていきたいとの思いを込めたものです。高齢期の医療や介護、生活などへの不安や関心の高さなどから、発足時50名だった会員は200名を超えるまでになっています。

主な活動は、講演会やフォーラムを開催し、医療や健康、介護等の情報などについて学び、語り合うこと、そして会員相互の交流を図るために年6回程度の会報の発行などですが、今後は別のかたちでも会員の親睦を図るための交流事業を考えていく予定です。

発足して間もない昨年11月には、介護保険制度の



会報編集会議の様子

活用等をテーマとした講演会を開催しました。また、今年5月には、フォーラム「自分らしく生きて 今、八十路」を開催。会員のほか一般市民約150名が参加しました。フォーラムでは、80代でも現役で活躍している3人の有識者による体験談やディスカッションを中心に進められましたが、その後、参加者同士が情報を交換し、全員で童謡・唱歌を歌い、盛会のうちに終わりました。参加者からは、在宅での介護や施設入所への不安から「介護制度や費用をわかりやすく教えてほしい」や「趣味の会などがあれば親睦が深まる」など活動への期待が寄せられています。

五十嵐会長は、「人の生活は、60歳までは大体同じだが、それ以降の折り返しは個人で様々。平均寿命と健康寿命の差を縮め、いかに自分らしく生きるかが大切」と高齢期の生き方を示し、「そのためにも、年老いても地域で自立した生活ができるよう、様々な情報を提供し、一緒に考えていきたい」としています。今後については、「発足から1年も経たないのに会員が増加し、期待の大きさを感じている。組織を整備し、財政を確立したい。現在盛岡市を中心に活動しているが、名称のとおり県内全体に広めたい」と話しています。

同会へのお問い合わせは、Tel 080-2835-1075（事務局 川村）まで。



5月に開催したフォーラム「自分らしく生きて 今、八十路」

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成26年6月10日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階 tel 019-606-1774 fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aaina.jp URL <http://www.aaina.jp/advancedage/index.html>

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>